

みさと自主防災報

「私たちの街は 私たちが守る」
「自分の命は 自分で守る」

平成23年12月15日

第15号

発行 三郷市自主防災組織連絡協議会
事務局 三郷市企画総務部安全推進課
〒341-0026

埼玉県三郷市幸房1155
TEL048(952)1294
FAX048(952)6780

ホームページ <http://www.jishubousaikai.com/>



市助・新和1丁目・新和2丁目・谷中 4町会合同自主防災訓練

自主防災会設立後23年で組織率93%達成!

昭和63年に初めての組織が発足して以来、平成23年11月現在で124団体が設立されました。
積極的な活動で活力ある組織をつくりましょう。

三郷市の自主防災会組織率

対象団体数(町会・自治会等の数)・・・134団体(みさと団地自治会は街区単位)

自主防災会の数・・・124団体 団体数での組織率・・・92.5%

組織されている地域の世帯数での組織率・・・93.2%

〈参考〉平成23年11月1日現在の組織率

全国・・・74.4% 埼玉県・・・82.3%

新規会員紹介

幸房中町会自主防災会

(早稲田ブロック)

設立 平成23年1月9日

世帯数 240世帯

役員数 7名

自らが活動の実行者となる意識を

三郷市自主防災組織連絡協議会

会長 中村 智 英



三郷市自主防災組織連絡協議会会長の中村でございます。みさと自主防災報も今回で第15号発刊となりましたが、これもひとえに各自主防災会が積極的に地域防災活動を展開している結果の一つの表れであり、役員や関係者のご尽力に感謝申し上げます。

さて今年3月11日の東日本大震災に始まり、その直後の長野県北部地震、8月に発生した台風12号と大規模な災害が発生し、各地でこれまでに例を見ない規模の壊滅的な被害をもたらしました。東日本大震災の死者行方不明者は2万人に届く規模となり、被災地では復興の遅れにより今なお長期の避難所生活を強いられています。三郷市においては大きな被害は発生しませんでした。計画停電や瑞沼市民センター避難所による広野町避難者への応援活動等により、震災を身近なものとして実感された方も多いかと思います。また、原発事故による

放射能汚染問題は、国も対応策を模索している現状であり、今後長期にわたって我々の生活に大きく影響を及ぼすことになる見込みです。

台風12号では統計開始以来の観測記録を大幅に上回る降水量を記録し、紀伊半島では相次ぐ土砂崩れや河川の氾濫などにより、多くの方々が被害に遭われました。

このような災害を無くすことは人の力ではできませんが、軽減することは可能であると考えます。歴史的な大災害を日の当たりにした私たちは、今後取り組むべき防災活動について、多くの教訓を得ることとなりました。

「自分の身は自分で守る」「私たちの街は私たちが守る」が当協議会のスローガンですが、生活環境の中で何を備え、災害時どう行動すべきか、自らが活動の実践者となるという意識を強く持つべきであると考えます。

当協議会では引き続き、各自主防災会や市民の皆様の防災意識高揚を目的とし、地域防災リーダーの育成や地域コミュニティの強化を図るための活動を進めてまいりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

平成22年度活動報告

各事業を円滑に実施するため、役員会及び各部会を12回行いました。実施した各事業については、次のとおりです。

- 平成22年6月12日(土) 総会・活動事例発表会**
文化会館大会議室で開催。事業報告、決算、事業計画(案)、予算(案)の承認。出席者120名。
- 平成22年7月25日(日) 自主防災訓練指導者養成講座**
防災リーダーの養成。53名受講、15名修了。
- 平成22年8月29日(日) 第23回三郷市総合防災訓練**
会員13名が協力参加。
- 平成22年10月17日(日) 指導者ネットワーク全体会及び研修会**
講演内容:地震・洪水ハザードマップについて。参加47名。
- 平成22年11月14日(日) 自主防災訓練指導者養成講座**
57名受講、15名修了。
- 平成22年11月から平成23年2月 ブロック情報交流会**
全7ブロックで開催。各自主防災会の活動状況や運営上の課題などについて情報交換を実施。参加者計166名。
- 平成22年12月15日(水) 機関紙「みさと自主防災報」発行**
第14号を全戸配布。
- 平成23年2月8日(火) 視察研修**
防災意識を目的に「そなエリア東京」「東京都慰霊堂」を視察。参加者65名。
- 平成23年2月20日(日) 自主防災訓練指導者養成講座**
47名受講、21名修了。

平成23年度事業計画

及び予算の概要

平成23年度総会において承認されました事業計画及び予算の概要は次のとおりです。

事業計画概要

- 平成23年6月12日(日) 総会、活動事例発表
- 平成23年7月～ ホームページ更新
- 平成23年7月10日(日) 自主防災訓練指導者養成講座①
- 平成23年10月～ ブロック情報交流会
- 平成23年10月23日(日) 指導者ネットワーク全体会及び研修会
- 平成23年11月13日(日) 自主防災訓練指導者養成講座②
- 平成23年12月15日(木) 会報第15号発行・全世帯配布
- 平成24年2月19日(日) 自主防災訓練指導者養成講座③
- 平成24年3月 講演会開催

予算概要

収入については、会費、三郷市補助金及び前年度繰越金で、約124万円を見込んでいます

支出については、約109万円の事業費を計上し、指導者養成講座、広報誌の発行、講演会、ホームページの更新などの事業を進めてまいります。その他、事務費、会議費等を計上しています。

自主防災活動の実績	平成22年度自主防災訓練実績	訓練実施団体	70団体	参加者数	4,352名
	平成22年度資機材等整備状況(補助金活用分)		36団体		

4町会合同防災訓練実施 市助町会、新和1丁目町会、新和2丁目町会、谷中町会

新和2丁目町会自主防災会 会長 立澤 敏正



私達の町会は三郷市に於いて一番早く自主防災会を設立した町会です。昭和63年11月鷹野文化センターに於いて当時の防災対策課の指導により、今後三郷市に於いては益々人口の増加が見込まれるので、市として行政の指導が万全を期する事が出来なくなる事になり得る。今後特に防災に関しては管理、及び指導が出来ないので各町会自治会に於いて、自主防災会を設立して戴きたいとの要望がありました。新和2町会は早速役員会を開催し、全員一致にて自主防災会を設立致しました。平成元年4月1日に三郷市防災対策課に新和2丁目町会自主防災会を設立した事を報告致しました。自主防災会本部長立澤敏正、副本部長本多民夫以下72名、備品については消火器18本を各班に1本ずつ配布、ヘルメット150個購入各班5個配布し、残りは町会倉庫に保管しました。その他三角バケツ、救急用薬箱、担架等購入しました。

2番目に設立された町会が新和1丁目町会、3番目が市助町会、4番目が新和3丁目町会、5番目が谷中町会でした。私は5町会同時に自主防災会が設立されたので、記念事業として5町会合同の防災訓練を実施したいと考え各町会にお願い致しましたが、各町会の都合により新和1丁目町会、新和2丁目町会、市助町会の3町会合同の防災訓練を、平成元年8月1日午前9時より新和小学校校庭に於いて、木津市長を招待し三郷市消防署署員の方の指導により実施しました。参加者は400名で消火訓練は粉末消火器の消火訓練でしたので非常に実感が有り、参加された各町会の会員様より高評を戴きました。又給食給水訓練については市防災対策課の鍋、釜等を借用し、おにぎり、豚汁を作り試食しました。給食給水訓練は3町会合同で実施し、市長並びに消防署長より好評を戴きました。

4町会合同防災訓練について

この防災訓練は実行委員会組織を作り輪番制で幹事町会を決めて開催して居ります。今年は新和2丁目町会が幹事です。

1. 目的

この防災訓練は各町会員の災害に対する応急対策と技術の向上及び防災意識の高揚を図り隣接町会との連携を確立するために三郷市安全推進課及び三郷市消防署署員の指導を仰ぎ実施するものである。

2. 実施期日

平成23年11月6日(日曜日) 午前9時~12時

3. 実施場所

新和小学校校庭

4. 訓練想定

関東地方に於いて大規模な地震が発生し、三郷市においても震度6強が観測され家屋及びブロック塀等の倒壊、道路のひび割れ、埋没、水道管の破裂等の災害が発生。また負傷者が発生しているとの情報により4町会合同自主防災会は速やかに連絡を取り合い、直ちに災害対策本部を新和小学校校庭に設置し、緊急災害時による応急対策を実施するために活動を開始した。

5. 訓練内容

時間	訓練種目	参加人数
8:30	情報伝達訓練	全員
8:30	避難誘導訓練	全員
8:45	煙の中での避難行動を体験	全員
9:00	開会式	全員
9:15	給食給水訓練	給食給水班
9:15	消火訓練	各町会10名
10:00	救護訓練	全員
11:00	閉会式	全員
11:20	試食	全員
12:00	清掃後解散	全員

6. 消火訓練を実施した後の清掃については幹事町会が行う。

今回の防災訓練の参加者は4町会合計で子供が11名、大人が258名、合計269名の方に参加して戴きました。今回は特に東日本大震災が発生し、津波による犠牲者が27,000名も居たと言う事から防災と言う意識が高く見受けられ、動作も緊張

して実施されて居られると見受け致しました。参加された方々から防災訓練に参加して大変よかったと好評戴きました。給食給水訓練については各町会毎に実施致し、今回は各町会共大変よく出来たと報告があり安心致しました。

合同防災訓練を実施する事により隣接町会との連携と親睦が高くなり、各町会様との談話する機会となりますので今後も継続して実施して行きたいと思っております。

今回の4町会合同防災訓練に対しご指導して戴いた三郷市安全推進課並びに三郷市消防署署員の方々に心より感謝し厚く御礼申し上げます。

お陰様で4町会合同防災訓練が何事もなく終了出来た事は、各町会長様をはじめ参加して戴いた各町会会員様の、ご支援とご協力を戴いた賜ものと心より感謝して居ります。ありがとうございます。

体験記

埼玉県自主防災組織リーダー養成講座(上級編)

三郷市自主防災組織連絡協議会 齊藤 公一

埼玉県東部の19市町から50名の防災リーダーが参加し開催されました。

今回は連協副会長 菊地・齊藤、ネットワーク代表 富田の3名が参加しました。

1日目の10月19日は、今年3月震災直後運用開始の埼玉県防災センターにてNPO法人キャンパー飯田氏の指導によりDIG(災害図上訓練)の目的と進め方の講義のあと1グループ6名で8グループに分かれ、熊谷市中心部の地図で想定訓練を致しました。

訓練は、グループごとに 次の4ステップで進行しました。

ステップ①自己紹介・役割決定・基本地図を作成し、その地図上に透明シートを重ねることにより開始されました。

ステップ②見える化作業 (1)自然条件の確認 (2)まちの構造の確認 (3)人・施設の地域資源を確認し、そのシート上にマジックで色別着色、色付シールで表示する。

ステップ③カイゼン (1)リスクや課題を整理ーグループKJ法で解決策を検討 (2)アイデア出しーハード対策(被害を出さないためにどうするか)とソフト対応(それでも出てしまった被害をどうやって小さく抑えてゆくか)を検討する。

ステップ④グループごとに、訓練内容を発表しました。

参加した3名はそれぞれ別のグループで研修しました。

まちのリスクを「見える化」し、強みを生かし弱みをカイゼンするDIG(ディグ)を自分のまちで活用し、自助・共助・公助それぞれとの関連性の上でなされる必要性があると強く感じました。

2日目10月28日は、参加者が2台のバスに分乗し「新潟県中越大地震」の伝承と防災を学習できる施設を視察・見学致しました。

①おちや震災ミュージアム「そなえ館」 発災から丁度7年目にあたるこの10月23日に開館したばかりで、直下型震度7の体験と時系列での被災の様子を映像と写真で、また避難所や仮

設住宅での様子や品物が展示されている防災学習施設です。オープン6日目で建物設備全て新しく、何よりも館員の皆さんは初々しく演出や脚色もなく、誠実にありのままを伝え、見学者自身の地域の状況を踏まえた上で、見て考えながら学んで下さいという姿勢には好感が持てました。

②妙見メモリアルパーク 92時間救出現場を被災者追悼の祈りの場所として、今回この参加者の中で年長者の富田代表がこの参加者一行の代表の一人として献花し、全員で黙祷しました。

③木籠(ここのも)メモリアルパーク 土砂ダムによって水没した集落群が土砂に埋まったままの状態で見られています。この地域の方々の住まいと、そこで運営されている直売所と資料館「郷見庵」が、この集落群を見下ろす場所にあり何とも複雑な気持ちになりました。

この視察で、語り部として、前小千谷消防団長の金子正夫氏のお話には感銘を受けました。88歳と87歳の両親を妻に任せ、気になりながらも消防団長として仕事に追われ14日目にやっと家に帰れるようになりました。妻にひどく怒られるのを覚悟で帰宅したところ、私の顔をみて優しく「ごくろうさま」と言うではありませんか。意外なことに戸惑いましたが、なぞは直ぐに解けました。それは、消防団の強力な後方支援により、近所の皆さんがいろいろお手伝いをしていてくれたからでした。

「遠くの親戚より近くの他人」とよく言われますが、正にその言葉通りでとてもありがたかった、と語る金子氏は印象的でした。

日本の伝統的な「共同体」の素晴らしさが「立ち上がれ! 団結小千谷実行委員会」発行の「絆」〜明日に向かって〜110ページの冊子のあとがきの次の文章に凝縮されていました。

「人は決して一人では生きてはいけません。支えあい慈しみあってこそ、人として生きられる。そのことを痛感させられた大震災でした。」

私たちが、この教訓から、防災を前進させなければならないと考えました。



三郷市自主防災組織 連絡協議会役員

平成23年4月1日～

- 会 長 中村 智英
(彦成2丁目町会)
- 副会長 菊地 靖孝
(東町みなみ町会)
- 副会長 齊藤 公一
(戸ヶ崎7丁目西町会)
- 会 計 菅原みつ子
(みさと団地二街区)
- 幹 事 笠井 良男
(みさと第三住宅)
- 幹 事 金刺 忠一
(さつき平1-2-1自治会)
- 幹 事 野中 照彦
(テラ・ウエスト2街区1号館)
- 幹 事 宮田 隆男
(北美町会)
- 幹 事 田村 守
(栄3・4丁目町会)
- 幹 事 嶋村 精二
(鷹野3丁目西町会)
- 幹 事 齊藤 寿夫
(早稲田つつみ町会)
- 幹 事 平島 和宣
(三郷早稲田第四住宅管理組合)
- 幹 事 前田 雅久
(谷口南町会)
- 監 事 桜井 康弘
(三郷早稲田第五住宅管理組合)
- 監 事 中田 満
(市助町会)

自主防災訓練指導者養成講座

修了者

平成23年12月1日現在 延べ 332名

ブロック	第19期	第20期	第21期
早 稲 田	藤原 初夫	瀧澤 文雄 加藤 敏明	齊藤 浩 今野 和夫
早 稲 田 団 地	小田桐芳昭 高橋 國勝	吉岡 研一	
東 和 東	嶋田 陽 中沢 亨	柳沼 勲 浅賀 良三	土方 滋
東 和 西	佐藤 久 川井麻佐子	山上 早苗 高橋 兵衛 島山 孝	
彦 成	堀切 利介 鈴木 文夫 鈴木 利一	酒井 雄二 橋本 輝明 新坂 修江	三ツ村 薫 篠田 利一 大津精一郎 小林 弘 宇田川晴司 西入 靖
み さ と 団 地	高橋 正子 藤田 潤子	峯 五男 長谷川宮子	今泉 惠一 加藤 義智 北川 芳明 齊藤 正夫
さつき平	武藤 弘明 平川 俊之	設楽久美子	広瀬 二郎

体験記

第17期修了者

みさと団地ブロック 川崎 節子

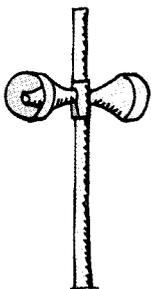


自主防災会指導者養成講座は、3回の講座出席で修了書がいただけます。講座は、応急救護訓練の基礎実技として、三角巾による応急手当(負傷個所の保護、止血法、骨折の応急手当)、毛布を使っての応急担架の作り方と搬送法。初期消火訓練の基礎実技として、消火器の使い方やてんぷら火災の消火の仕方。バケツリレーの仕方、煙体験ハウスの組立運営(第2回生～3回生)。救出訓練の基礎実技として、転倒家具等からの救出の仕方、仮設トイレの組立(第2回生～3回生)。ビデオ鑑賞(避難所運営訓練)、指導者としての災害への心構え、自主防災会の運営、訓練企画と事務手続き、給食給水訓練があります。(第3回生)。

2回目は1回目の復習になり、3回日は復習も兼ねながら、指導者として活動できるように二人一組で訓練します。修了すると指導者ネットワークがあり、登録することで養成講座での指導者となります。

取得した技術も使わないと、忘れてしまいます。講座を受けられていない人は、是非講座を受けていただき、終了後はネットワークに登録しましょう。

防災行政無線と全国瞬時警報システムの連携



地震や豪雨等の災害が発生した場合、規模や現場の位置などを把握し、いち早く正確な情報を市民の皆様へ伝達する必要があるため、三郷市では昭和63年から防災行政無線の運用を開始しています。

情報は市役所本庁舎と消防庁舎内にある操作卓(親局)の操作により、学校等の施設に設置された106箇所の拡声器(子局)から市内全域に放送されます。

放送内容は「緊急放送」「一般放送」「チャイム放送」の3種類です。

●緊急放送(災害時)

- ①暴風、豪雨、洪水、地震、大規模な火災等の非常事態(避難勧告、避難指示)に関するもの
- ②気象情報で特に必要とする警報及び注意報に関するもの
- ③その他、災害上緊急重要な事項

●一般放送(平常時)

- ①上水道の断水、ガス漏れ等市民生活に係る突発的な事故
- ②その他、人命救助等市民に緊急に知らせる必要があるもの(児童下校放送、行方不明者放送、振り込め詐欺注意喚起放送など)

●チャイム放送(定時放送)

4月～9月は午後6時、10月～3月は午後4時30分に、メロディとともに子どもたちへ帰宅を促す呼びかけが放送されます。また装置の動作確認の目的も兼ねています。

…お願い…

拡声器(スピーカー)は経年によるバッテリーの消耗や落雷等により音声が出なくなる場合があります。そのようなスピーカーを発見された場合は、安全推進課までご連絡ください。

■連絡先 048-952-1294

さらに、三郷市では平成23年5月から「全国瞬時情報システム」(J-ALERT)の運用を開始しました。このシステムは国が緊急情報を直接瞬時に住民に伝達する世界でも画期的なシステムです。

大規模テロ等の有事情報や、緊急地震速報(震度4以上)、河川洪水等の自然災害情報が、市内に設置されている防災行政無線の拡声器(スピーカー)から警報音とともに放送されます。放送を聞いた時は、あわてずにはまず身の安全を確保し、テレビやラジオの情報に注意して行動して下さい。

